

丸山城跡



丸山城跡遠景

(北東より、標高 482m、麓との比高差約 280m)

県文化財指定日：平成 28 年 4 月 12 日

所在地： 島根県邑智郡川本町大字三原 768-1 番ほか（標高 482m）

面積： 836,646 m²

丸山城跡は中世末期の山城跡で、現在の川本町を拠点とし、石見東部を領有した小笠原氏にとって、当地における最後の居城である。石見唯一の総石垣造りの中世山城であり、防御施設をほとんどもたない「山頂の館」として、県内のみならず全国的にも希有な遺跡です。

毛利氏との戦いに敗れ、居城である温湯城（川本町市井原）を去った小笠原氏が、後に丸山城の築城と石見銀山を含む江の川以北の所有を許されていること、さらに豊臣氏と毛利氏が石見銀山を共同管理した銀山の最盛期に、銀山の技術者を統括していたことなど、文献史的にも再評価がされつつあり、島根県の歴史はもとより、日本の歴史にとっても重要な遺跡といえます。

・中心部のようす 最高所の本丸は、東西 70m、南北 65mの規模で、東西に門を配し、周囲に石塁状の石垣を廻らせている。礎石建物跡が 2 棟、遺物はほとんど出土していないことから、政庁のような公的空間と考えられる。

西の丸は、東西 45m、南北 55mの規模で、南辺に 2 箇所、北辺に 1 箇所の門を配し、本丸同様に石塁状の石垣が廻る。4 棟の礎石建物跡やカマド、陶磁器や土師器が出土していることから、居住域と考えられる。



・その他の曲輪のようす 他の曲輪は、具体的な性格は不明であるが、平成 27 年度の石垣調査により、大半が本丸と同様な石塁状の石垣をもつことが確認された。

・登城道 十二の曲輪から東麓に降りる道、西の丸から北へ直線的に降りる道跡、さらに三の曲輪を東西に抜けてつづら折りに降りる道が部分的に確認されている。



①発掘された平成6年頃の丸山城跡
(西の丸の東側南門)



現在の丸山城跡

経緯

- 1559(永禄2)年 小笠原氏(長雄)^{ながかつ}が毛利氏に降伏(温湯城落城)
- 1583(天正11)年 丸山城築城開始
- 1585(天正13)年 丸山城が完成し、小笠原長旌^{ながはた}が入城
- 1591(天正19)年 太閤検地により所領を大幅削減され、丸山城から出雲神西に転封、隠居
- 1592(文禄元)年 この年か前年に丸山城が破城される?(秀吉の山城停止令)
- 1600(慶長5)年 関ヶ原の戦いで勝利した徳川家康が石見銀山を接收(丸山城も接收か?)
- 1867(明治元)年 明治維新後、幕府所有地である丸山は国有地に移管
- 1960(昭和35)年 丸山が町有地に移管
- 1994(平成6)年 町史跡に指定
- 2016(平成28)年 島根県の文化財に指定

経路図①(川本町三原～丸山城跡) 車で山頂近くまで登頂

三原トンネル先を左折し、道なりに約1.2km



ここ(駐車場)から徒歩で登頂



左側の橋を渡った先を左折し、道なりに約2.7km



道なりに約300mで山頂へ



経路図②(川本町三原～わんぱくの森公園～丸山城跡) 車と遊歩道で登頂

三原トンネル先を左折し、
道なりに約 100m



わんぱくの森看板を左折し、
道なりに約 500m



わんぱくの森看板を左折し、
道なりに約 1.5km



歩道の看板に従い約 540m 登る

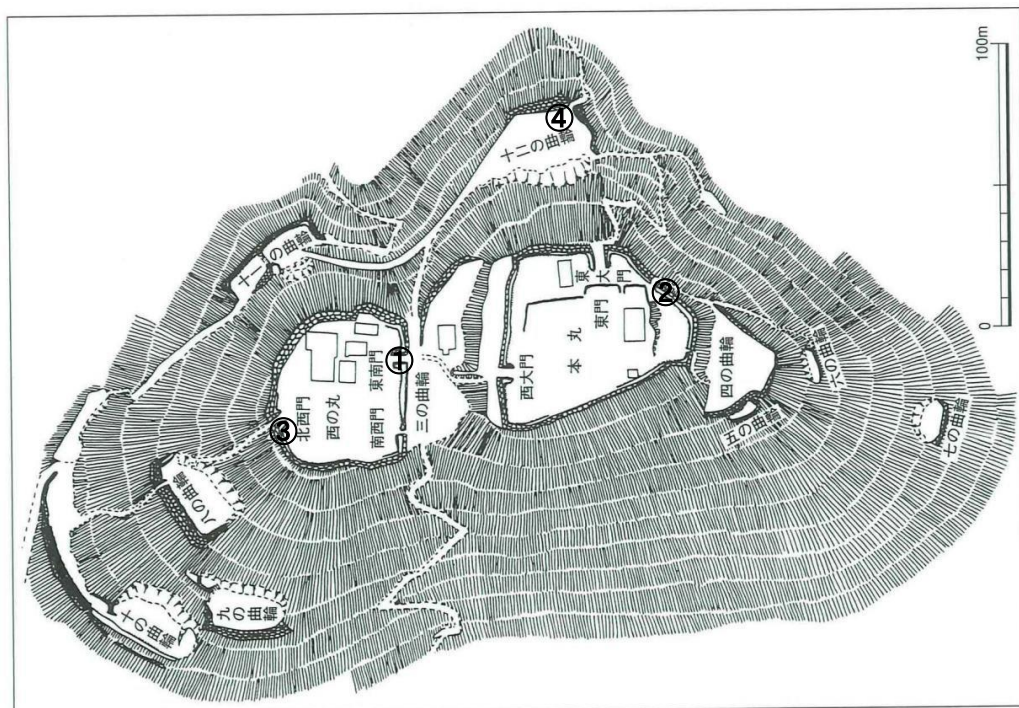


丸山城平面図の十二の曲輪付近の登城路



④十二の曲輪^{くるわ}に出るので、
丸山城平面図に従い、登城して
ください

丸山城平面図



丸山城跡の写真



②帯曲輪^{くるわ}の石垣の状況: 本丸の東南面



③石づくりのカマド:
西の丸、2連式カマドで台所と推定



上空から見た現在の丸山城跡
平成28年4月撮影